

令和5年度「内子町まち・ひと・しごと創生推進会議」検証結果資料



内子町

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	総務課、町並・地域振興課、こども支援課
ミライ・プラン	【ミライ1】住みたい人をよべるまち
主な取り組み	外部人材によるまちの活性化、受入環境の充実、移住お試し機能の充実、子育て支援の充実
基本計画該当頁	19

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
うちこ屋バンクの充実	活用可能な空き家の発掘を行い、うちこ屋バンクへの登録を増やします。また、移住希望者と空き家所有者のマッチングを行うことで移住を促進します。	空き家所有者へうちこ屋バンクの制度を説明し、承諾が得られた物件を空き家バンクへ9件登録するとともに、移住希望者への空き家物件の内覧に立ち合い、5件の契約が成立した。
移住お試し機能の充実	「仕事」の見える化を図った情報をもとに、内子暮らしの移住プランを作成します。移住経験者等と連携し、具体的な移住体験プランを作成し発信します。一週間程度の短期で利用できるお試し住宅を用意し、より手軽に移住体験ができる仕組みを整えます。	移住相談において、民間が運営している「ゲストハウス内子晴れ」、「おだいま」「どい書店」を利用することを紹介することで、先輩移住者との意見交換や田舎暮らし体験が可能であることを説明した。また、南予子育て移住促進協議会事業で移住体験ツアーを実施し、10組の子育て世帯の町内案内や先輩移住者との意見交換会を実施した。
移住サポーターや民間組織等を活用した受け入れ体制の充実	移住サポーターの増加を図るとともに、自治会等と連携し、独自の技術を持った地域に必要な人材の移住を進めます。また、他自治体の移住促進の窓口となっているNPO組織等の取り組みに学び、民間の受け入れ体制の組織化を進めます。	移住コーディネーター業務を委託し、移住相談件数15件、町内案内件数32件、空き家相談件数8件、移住者実績4件（9名）、その他関係人口拡大の取り組みを実施していただいた。移住本気度に応じた移住相談や町内案内の取り組みができた。
地域おこし協力隊による地域づくりの推進	コミュニティ活動の活性化や、地域の伝統行事の保存・継承、都市との交流事業や産業振興等による地域づくりを推進するため、地域おこし協力隊を採用します。また、隊員が任期終了後もまちづくりの担い手として定住するよう、活動の事業化や起業に向けた支援を行います。	教育魅力化担当の協力隊員が卒業。引き続き教育魅力化に関わっていただくよう小田支所と一緒に調整。ただし、町内定住とはならなかった。また、観光担当の隊員は、順調にミッションを進行中。令和5年度採用に向け商品開発担当、有害鳥獣担当、小田深山担当の採用を内定した。石畳地区担当、御祓地区担当については募集をしたが、応募がなかった。石畳地区担当、御祓地区担当は10月採用に向け募集を継続中。

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
内子町で育まれてきた伝統産業の後継者（匠づくり）の育成		和紙関連の後継者1名を匠づくり奨励金により支援した。
放課後児童クラブの拡充	放課後児童クラブの利用者のニーズ把握に努め、必要に応じてクラブを拡充します。	内子・五十崎・天神小の1～3年生を、内子児童クラブ32名、五十崎児童クラブ35名の児童を受け入れたが、待機児童が発生した。内子小学校敷地内と天神小学校の空き部屋を利用してクラブ室を整備した。
児童虐待の相談・対応	町内外の関係機関が連携し、地域における児童虐待の相談・対応を行います。また、要保護児童対策協議会の機能を充実し、地域の虐待防止ネットワークの体制の強化を図ります。	児童相談所や警察、学校等と連携し、地域における児童虐待案件への相談や対応を行った。経過観察や支援の必要な児童・家庭について、個別のケース会議を2回開催した。
巡回相談・教育相談（認定こども園・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校）	幼児児童生徒の集団適応状況を確認し、ニーズを把握するとともに、適切な支援や環境調整、合理的配慮とうについて、保護者や学校等と共に検討する。	園・学校の定期巡回相談または、依頼巡回相談（検査、結果、面談含む）を実施。保健センターで実施している1.6健、3健からの相談で幼児面接を実施。保護者や園・学校（関係機関）と合意形成や連携に努めた。今年度より愛媛県発達障がい者支援センター定期巡回相談事業を実施し、医療への早期療育へ繋げた。
療育事業（発達相談・個別教室・集団教室）	幼児を対象とし、早期発見早期療育へ繋げるために、発達検査や教室を活用する。	発達相談、個別・集団療育教室を実施し、必要に応じて園児・児童・生徒を医療機関に紹介し、適切な支援へ繋げた。
相談事業	各種相談の窓口となり、必要に応じて関係機関と連絡調整をする。	複雑なケースは多くの関係機関が関与するため、一層の連携・連絡調整が必要となる。

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
移住相談件数（来町分）	件	14	15	30
移住体験プログラムの実施（支援も含む）	回	0	10	3
移住世帯・人数（累計）	世帯/人	81/170	99/197	100/230
うちこ屋バンク登録件数（累計）	件	22	45	44
地域おこし協力隊員数	人	4	2	毎年2名採用
地域おこし協力隊任期後の定住率	%	50	42.9	80
伝統産業技術研修者の育成	名	2	1	3
放課後児童クラブ設置箇所数	箇所	2	2	3
巡回相談	年/回	100	236	100
療育事業	年/回	150	177	150

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住コーディネーター2名だけでなく、南予移住マネージャーとも連携した移住相談を進めるとともに、空き家の掘り起こしを行う。また、オンラインコミュニティの情報発信力を生かして首都圏での移住相談会の集客を図る。</li> <li>・ 今後とも伝統産業を継承していくために、本事業を活用して育成していく。</li> <li>・ 放課後児童クラブの受け入れ態勢整備（スタッフの確保）が急務となっている。</li> <li>・ 巡回相談（検査、結果、面談を含む）を実施してくれる外部指導の先生が少ないため、確保に努める。</li> </ul>
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後児童クラブのスタッフ確保がかなり難しい状況の中、保育士や小学校の教員免許等の資格がクラブの中に1名その職のものがいれば構わないということなので、その補助として会計年度利用職員を募集して対応するなど、引き続きスタッフ確保に努めていただきたい。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	保健福祉課、建設デザイン課
ミライ・プラン	【ミライ2】誰もが安心して暮らせるまち
主な取り組み	地域の元気を創造する、生きがいを感じる場の提供、社会とのつながりの強化、ユニバーサルデザインの採用、地域医療体制の維持・強化
基本計画該当頁	20・21

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
地域包括ケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、介護の連携強化を図り、退院から在宅へ切れ目のない支援ができるよう取り組みます。</li> <li>・地域のネットワークを強化し、地域課題やニーズを把握するための自立支援に向けた地域ケア会議を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・介護の連携については、大州喜多在宅医療・介護連携会議に毎月2名体制で交代で出席し、連携強化に向けて関係性構築を図るとともに、医療機関からの退院時には関係機関との情報共有を行いスムーズな退院支援に務めた。</li> <li>・介護予防、自立支援のための地域ケア会議を年3回実施。地域の多職種と顔の見える関係、繋がりを地域課題・ニーズを把握する基盤づくりができつつある。</li> </ul>
妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援	<p>子育て世代包括支援センター（にこにこサポート）を中心に、妊娠期から専門家による相談・教室の実施や支援の必要な方へのサービスの提供など、個別に応じた支援を行います。赤ちゃん訪問・乳幼児健診・相談事業では、児の発育発達を確認し母子ともに健やかで安心して育児ができるよう支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生数が4割減少した分、丁寧なかかわりを実施した。</li> <li>・伴走型支援と出産、子育て応援交付金が国の施策であたらしく始まり、出産応援：75件 子育て応援：45件に交付した。</li> <li>・プレママ教室は参加者の満足度が高く、継続していく。</li> <li>・産後ケア事業は今年後新たに開始されたが、延5組の利用があり、不安の解消等の目的は達成されている。</li> <li>・教室や健診、相談事業は、密を避けるための方法として、会場の設営や対象人数を減らしたり、複数回での開催としたり、感染予防対策に配慮して実施した。</li> <li>・受診率や参加率の低下はなかった。</li> </ul>
自殺予防対策や引きこもり対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の周知を行い、誰でも気軽に相談できる体制を構築するとともに、地域で見守り・つなぐことができる人材育成をしていきます。</li> <li>・精神保健ボランティアグループ等が行う、引きこもりの方やその家族、または社会的に孤立されている方が気軽に集えるサードプレイスづくりを支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいの会は感染予防を実施しながら12回実施し、閉じこもり予防や交流、社会参加のため継続して実施できた。（参加：延87 ポラ：50）</li> <li>・ボランティア主催の「ふれあいカフェ」は居場所づくりの目的で12回実施され、円滑な開催のために支援をした。</li> <li>・訪問や相談等個別のかかわりから集団支援実施（点→線→面）</li> </ul>
高齢者福祉支援事業	<p>老人会などの高齢者福祉団体と連携し、ボランティア活動や高齢者の生きがい活動を進めます。</p>	<p>令和5年10月開催のねんりんピックに向け、R4.6.23に内子町実行委員会設立総会開催、11月に先催県のかながわ大会を視察。啓発グッズ作成した。老人クラブ数34、会員数1,082人。クローカー審判講習を開催し、自主運営の機運を高めあった。新型コロナウイルスの影響で他の活動は活動は低調だった。</p>

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
在宅福祉事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生児童委員・見守り推進委員による高齢者の見守り体制の充実強化を図ります。</li> <li>・ 配食サービスや介護用品支給事業、移送サービスの継続により、在宅での生活を支援します。</li> <li>・ 緊急通報装置設置事業を継続し、緊急時に迅速かつ正確な救援体制を整備します。</li> <li>・ 自立高齢者の外出支援のため、生きがいデイサービス事業を継続します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者 655人に対して見守り活動を行った。</li> <li>・ 配食:実人数 107人、延 10,441食 用品:実人員 125人、3,655,590円 移送:実人員 9人、延 70回</li> <li>・ 緊急通報装置設置は、R3年度末33件から36件(6増3減)になった。</li> <li>・ 生きがいデイサービスは52名が登録、外出支援を利用した。</li> </ul>
地域支え合い体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物弱者への支援活動や地域生活支援体制の充実強化を図ります。</li> <li>・ 高齢者等の徘徊、孤独死などの見守りネットワークを拡大します。</li> <li>・ 地域のふれあいいきいきサロン事業を支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉協議会の高齢者いきいきサロン数は43、休会中が7。新型コロナウイルスの影響で活動は落ち込んでいたが、少し回復傾向にある。</li> <li>・ フジ、JA等移動販売が各地域に入っており、個別の相談等があれば情報提供等を行い連携を図っている。</li> </ul>
障がい者地域生活支援事業	<p>コミュニケーション支援事業、日常生活用具の給付または貸与、移動支援事業、日常生活または社会生活支援事業を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者（児）各々に適した日常生活を営むために、手話通訳者派遣、スタマ給付、社会参加のための外出援助などを行った。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの採用 (保健福祉課)	<p>文化や障がいの有無を問わず、快適に生活できる地域空間を実現するため、身体障害者更生会等への意見聴取や、町の各種協議会にて現状の検証を行います。 改善が必要な個所については、ユニバーサルデザインへの改善を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大瀬自治センター改築でUDを取り入れて検討した。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの採用 (建設デザイン課)	<p>既存施設や、新たに設置する施設について、できるだけ多くの人に分かりやすく、利用可能なデザインとします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平岡児童公園のトイレについて、赤ちゃん用のベッドを設置したり車いすの方でもトイレが利用しやすいようにスロープやトイレの改修を行った。</li> </ul>
大洲喜多地区の救急医療体制の維持・充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 喜多医師会、大洲市、県など関係機関との連携を強め、二次救急医療体制の維持強化を図ります。</li> <li>・ かかりつけ医や急患センター、二次救急医療機関それぞれの機能に応じた適正な受診となるよう、啓発活動を展開します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大洲市・輪番病院、その他関係機関・団体との連携により二次救急輪番体制を維持することができた（R5年度も変更なし）。</li> <li>・ 救急の日（9月9日）にあわせてかかりつけ医等の普及啓発を行い医療の適正受診に努めた（ポスター掲示、HP周知）。</li> </ul>

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
赤ちゃん訪問率	%	100	100	100
自殺者数	人	3	3	減らす
高齢者いきいきサロン数	箇所	58	43	60
二次救急医療体制の維持・継続		4医療機関による輪番	4医療機関による輪番	現体制を維持・継続

今後の方向性及び改善点	障がいを持つ方々の社会参加や自立を促し、経済的な利益を得るため農福連携事業の取り組みについて、支援策を検討する。
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ul>
	推進会議	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ul>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率を劇的に改善していくことはかなり難しいことではあるが、国や町の支援制度を丁寧に実施していくことは大切なことである。長期的に考えていかなければならない問題である。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	農林振興課、町並・地域振興課、学校教育課
ミライ・プラン	【ミライ3】未来へつながる仕事を創造するまち
主な取り組み	担い手の育成、労働力の確保、内子ブランドを生かした産品づくり、創業・起業支援
基本計画該当頁	22・23・24

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
商業の活性化を図るための空き店舗等対策（空き店舗等改修等）への支援	老朽化等による既存店舗の改修も視野に取り組みます。	新規事業を活用し、空き店舗等2件を改修した。
創業・起業を促進するためのフォローアップ支援	えひめ産業振興財団との共催により、創業・起業を目指す方向けにセミナーを開催します。	創業塾セミナーを開催した。※特定創業支援等事業 2022年7月27日～8月24日まで全5回開催。受講者6名（開催期間の延べ人数は28名）であった。
小規模企業の振興を推進するための取り組みを支援		中小企業振興資金融資制度を活用し、融資による事業者支援を12件行った。 12事業者の融資総額：45,000千円
内子産品の販路拡大	町内事業者等と連携し国内外への販路開拓を推進します。	新たにレイクタウンmori（埼玉）で愛媛県フェアに参加。 町産品販路開拓支援補助金を募集し、昨年より1件増え8件の採択を行った。（新規事業者2件）
ブドウ新品種の推進	高収益の見込める青系ブドウを推進します。	1,517a
高度技術導入	改植や増作での高度技術（ジョイント栽培等）の普及を推進します。	32a
加工作物の推奨	内子町農畜産物加工施設を活用し、加工作物の栽培を進めます。	389a（50t）
就農支援事業	就農相談窓口を農村支援センターに置き、大洲農業指導班等関係機関と連携して、就農支援にあたります。	認定新規就農者 2人
	Iターン者等に対しては、新規就農者研修滞在施設の機能を活用して、営農指導と先進的農家での研修、農業次世代人材投資事業の助成制度および内子町独自の支援制度を創設するとともに、地元農家との交流を促進し、就農に向けての支援を行います。	農業次世代人材投資資金【経営開始型】：5経営体8名 新規就農者育成総合対策事業【経営開始資金】1経営体2名 新規就農者研修滞在施設：1棟入居 親元就農支援事業創設
	経営基盤の充実を志向する農業者や集落営農組織に対して、法人化に向けた相談や情報提供、支援を行います。	経営基盤の強化のため多面的機能支払交付金の活動組織等を通じて法人化などの情報を提供

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
集約化施業の推進	森林経営計画および森林経営管理法の経営管理権集積計画の策定による集約化施業の推進を図ります。	森林経営計画 認定件数 35件 新規 11件、経営計画面積 635ha 変更 24件
条件不利地等の森林施業の推進	森林環境譲与税を活用し、地理的条件などにより荒廃した森林の整備を図り、森林の多面的機能の保全を進めます。	環境林整備事業補助 75件 61.70ha 補助金額 16,016,122円
林業の担い手確保	農業と林業を横断した連携を強化するため、協議組織の設立を進めます。	林業就業支援事業補助（町内 1名）
森林に関わる幅広い分野での連携の推進および支援	将来の木材の需要拡大のために、新たな視点の取り組みや連携に対する支援	森林整備促進機器導入事業補助（GNSSスマートアンテナ 2台）
森林・林業に関する啓発活動の推進	森林・林業に関する事業や啓発活動への協力	内子の森づくり事業（中止）、林ターン（3/11.12）、ワッツ-ツリ-フォレスト（8/21）、親子木工教室（県主催：11/27 内子東自治センター）、ムラ暮らしインターン（九州のムラ主催：10/3-16）
キャリア教育の推進（ジョブチャレンジU-15 事業等）	町内中学生（2年生）が5日間の職場体験学習を通して適切な勤労観や職業観を育成する。	町内外で10月上旬に3日間で実施した。大変充実した実践ができた。

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
空き店舗等改修支援件数（累計）	件	0	4	5
創業・起業（小規模事業者・個人）の支援	件	8	14	15
支援対象事業者の売上高	千円	200,000	246,119	250,000
じゃばら	a	200	389	300
青系ぶどう	a	1,300	1,517	1,500
モチムギ	a	80	80	100
キウイフルーツ	a	1,300	1,520	1,700
認定農業者	人	227	171	250
認定新規就農者	人	14	19	19
集約化施業による森林整備	ha	6,533	9,967	8,000
条件不利地等の森林整備	ha	116	337	600
造林等による森づくり	ha	73.7	68.4	90.0

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、創業・起業の環境整備・支援事業を展開するとともに、事業承継者への支援等、事業者のニーズに沿った制度を制定し、商工業を活性化させていく。</li> <li>・平成22年度から販路開拓のため観光物産展を実施し、一定の効果が現れている。令和2年度からは新型コロナウイルスの影響で売上が低迷していたが、国内外への移動も緩和されたことをきっかけに令和4年度は売上高が増加。今後はさらに国内外への活動を促進しつつネット販売も強化していきたい。</li> </ul>
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイヤーの方々ともコンタクトを取っていく事業充足することを考えてはどうか。</li> <li>・親元就農支援事業を進めて欲しい。（情報発信を含めて）</li> <li>・以前実施していた「知的農村塾」のような勉強会をする機会があると良いのではないか。</li> <li>・ブランドを活かした産品づくりにおいて、内子町独自の農産物、工芸品、製法、種、管理方法など知財管理について手薄になっており、勉強をしていくシステムを作るような取り組みにも期待したい。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	総務課、建設デザイン課
ミライ・プラン	【ミライ4】災害に強い安全なまち
主な取り組み	リスクの周知、地域防災力の強化、まちの耐震化、拠点機能の強化、避難所の充実強化
基本計画該当頁	25・26

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
自主防災組織の訓練、防災士養成の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署、消防団と連携し、自主防災組織での訓練を支援します。</li> <li>・それぞれの地区の特性にあった地区防災計画の策定を支援します。</li> </ul>	自主防災組織活性化補助金を活用した。（9組織）
防災関連資器材・備蓄品の整備	避難所などの防災施設、防災関連資器材の整備を進めます。	避難所用備蓄食料を更新した。（アルファ米6000食分 他）。また、町内3薬局の協力のもと、医薬品備蓄も実施。
防災マップの作成・配布	指定緊急避難場所、指定避難所などを明示した41自治会ごとに配布している防災マップを、随時更新します。	土砂災害警戒区域追加指定に伴い、防災マップを更新予定（令和4年度追加指定分）。
災害対策本部の強化と防災拠点の分散化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ会議システムによる災害対応の迅速化や効率的な情報共有、IoT機器を活用した災害対策本部の強化に努めます。</li> <li>・本庁が浸水等により災害対策本部としての機能が停止することを想定し、防災拠点の分散化を図るとともに、浸水を想定した車両や書類の避難訓練を定期的実施します。</li> </ul>	対策本部開催時にタブレットを活用する他、web会議により、効率的な情報共有、連携を図り、改善していく。
建築物耐震診断事業の推進	町内木造住宅および緊急輸送道路沿道の建物の耐震性の有無を確認し、耐震改修工事を進めます。また被災時の災害復旧活動の円滑化を進めます。	耐震診断技術者派遣事業による診断を7件行った。
木造住宅耐震改修事業の推進	建物全体の耐震改修工事や部分補強工事等を行うことによって、総合的な減災を図り人命と財産を保護します。	耐震改修設計2件、耐震改修工事2件を行った。町内の耐震改修登録業者を増やすため、2月に建築業者や設計コンサルタントを対象に低コスト工法講習会を行った。

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
広報誌掲載等による住民意識啓発	広報誌への情報掲載や、出前講座・戸別訪問をすることで、地震に対する住民の意識向上を図ります。	広報5月号に情報掲載を行うとともに、戸別訪問232件や出前講座を五十崎自治センターで行うなど、地震に対する住民の意思向上を図った。
老朽危険空き家除却事業の推進	老朽危険空き家が、大規模地震の際、倒壊して避難路を塞がないよう危険な空き家の除却を推進することで減災を図ります。	老朽危険空き家除却補助事業による除却を16件行った。
土砂災害防止施設の整備	県費補助事業並びに町単独の補助金制度を活用し、継続的に行き崩れ危険箇所の対策工事を進めます。また、県営の砂防、地すべり、急傾斜等の防災対策事業を促進するため、県への要望活動を継続して行います。	予算配当を受け、県費補助事業は6件、町単独事業は2件の対策工事を行った。県営の防災対策事業の促進のため、県への要望活動及び地元要望の掘り起こし作業を行った。
地域の防災力を高める道路整備	災害時の避難や緊急車両の進入が円滑に行えるように拡幅整備を行い、地域の防災力を高める道路整備を行います。	継続案件として重松地区において、最小幅員が2m程度の町道滝山線の現道幅を、4mに拡幅する改良工事を行った。
重要構造物の定期点検	橋梁やトンネル等の重要な構造物については、5年に1回のサイクルで近接目視点検を行います。また、点検経費の削減のため、ドローンなど新技術の導入を進めていきます。	橋梁点検については、2巡目点検の4年度目として、60橋の一般橋梁の点検を実施した。これにより、241橋中236橋の点検が終了。残り5橋を令和5年度で点検予定。
内子町商店街の無電柱化	景観の保全、安全で快適な歩行空間の確保、震災時における避難経路としての機能確保を図るとともに、良好な景観の形成に向けたまちづくりを進めていきます。	無電柱化工事の実施に向けて、計画区間全体(1.2km)の埋設物調査並びに、一部区間(内山建材～焼肉ありもと間)の詳細設計を行うとともに、電線管理者との事業調整を進めた。

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
防災士登録者数	名	157	203	300
地区防災計画策定	地区	2	0	20
木造住宅耐震診断事業	戸	42	64	117
木造住宅耐震改修事業	戸	11	15	61
老朽危険空き家除却事業	戸	47	93	127
土砂災害危険個所の年間対策数（県営）	箇所	6	8	10
土砂災害危険個所の年間対策数（町営）	箇所	9	6	10
土砂災害危険個所の年間対策数（補助金）	箇所	1	2	3
町道の年間整備数（交付金事業）	路線	3	4	4
町道の年間整備数（町単独事業）	路線	2	8	2
橋梁定期点検数（町道橋5年に1回）	橋	241	60	241
トンネル定期点検数（5年に1回）	本	1	0	1
橋梁の年間修繕工事数	橋	4	2	4
本町商店街の無電柱化	m	0	135（設計・事業調整）	1,200

今後の方向性及び改善点	対費用効果と実現性を精査しながら、進展が見込める目標から優先して実施する。（総務課）
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ul>
	推進会議	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ul>
		意見	<p>・商店街の無電柱化については、地域の強いニーズがあると思われるので、コストがかかるが計画的に着実に事業を進めていただきたい。（費用と実現性など様々な要因を加味し、優先順位を付けながら着実に進めていただきたい。）</p>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	環境政策室、総務課、町並・地域振興課、学校教育課など
ミライ・プラン	【ミライ5】環境危機に行動するまち
主な取り組み	ごみゼロへのチャレンジ、食料・エネルギーの自給率向上、自然生態系の保全、魅力ある風景の創造、環境教育の推進
基本計画該当頁	27・28

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
景観まちづくりフォーラムの開催と啓発活動	平成21年度から毎年継続してきた景観まちづくりフォーラムを継続して開催し、学習と意識啓発を図ります。町内での優良な景観形成活動や建造物を表彰する景観まちづくり賞の充実を図り、景観形成に協力した企業や団体、個人についても広報紙やホームページで紹介するなどして、景観に対する意識の高揚を図ります。	景観まちづくりフォーラムの開催については、コロナの感染拡大により開催を見送った。 景観まちづくり賞については、啓発活動部門において1名（河野杉雄さん）と建築部門において1社（横田酒店さん）を表彰し、広報うちこで公表した。
内子らしい建造物の推進	建造物については、近傍と調和のとれた形状や色彩とし、原則として自然素材の使用を推奨します。また公共施設や用地は植栽を行い、緑化に努めます。	景観計画区域内における行為届出について、景観まちづくり計画の基準に基づき審査を行い、良好な景観づくりに努めた。
内子の玄関づくり、顔づくり	主要な国道、県道の内子入口付近、特にJR内子駅前通りなどの景観計画重点区域については、景観まちづくり評価員の意見を聞きながら、玄関口にふさわしい修景を進めます。	景観計画重点区域内における行為届出について、景観まちづくり評価員会を開催して意見を聴取し、届出者に計画の修正を求めて基準に沿った景観づくりに努めた。しかし、再三依頼したにも関わらず社名公表となった事例が出てしまった。
内子らしい農村風景の形成	景観農業振興整備計画に沿い、景観と調和のとれた良好な営農条件を確保し、区域や農地の保全などを一体的に進めます。	総務課として実施した事業は特にはないが、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度の活用等により、農村景観の維持等に努めている。
一般家庭への普及促進	木質バイオマス利用設備をはじめ、太陽光発電設備、蓄電池等、一般家庭での再生可能エネルギー関連設備の普及・拡大を進めます。	内子町地球温暖化対策設備導入促進事業により一般家庭への再生可能エネルギーの普及に努めた。また対象設備にZEHを追加した。 ※補助件数：太陽光発電設備5件、蓄電池8件、バイオマス機器1件、ZEH対応住宅1件

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
公共施設等への導入	公共施設における自主電源の確保、再生可能エネルギーの普及を目指し、事業者等との協働による導入も視野に検討を進めます。	オンサイトPPA方式による再エネ導入について、業者を選定し、調査・検討中である。
モデル地区設置の検討	再生可能エネルギーの普及・拡大を目指し、学習機会を設けるなど地域での機運醸成を図りながら、モデル地区設置に向けた検討を進めます。	「内子町脱炭素戦略」を策定し、「町並み」「村並み」「山並み」などのエリアに分けて10の重点施策を掲げた。今後、各施策の実現可能性調査等を順次実施し、検討を進める。
木質バイオマスの普及・拡大	町内の林地残材等からできる木質ペレットの利活用を図るため、木質ペレットを燃料とした機器（ボイラー、ストーブ）の普及を進めます。	H29大瀬保育園新築（ボイラー）以降、木質ペレット機器の導入はなく、ストーブも撤去後の再設置がない状況。一方、R4.10月から龍王バイオマス発電所が稼働し、町内における木質ペレットの利用量は増大している。
廃食油燃料（BDF）の利活用	廃食油の回収を全町で進め、公共施設・公用車等におけるBDF（B100、B5）利用機器の普及を図ります。併せて廃食油を活用したバイオディーゼル発電（コージェネレーション機器等）の導入を検討します。	公用車は、BDF（B100）利用可能な車種が限定されるため普及困難な状況である。ボイラー利用は、設備更新時に導入検討を働きかけている。またコロナ禍の影響で廃食油の回収量が減少したことから、NPOと協働して提供を呼びかけ、新たに3事業者の協力を得ることとなった。
5R の推進	これまでの5R（リフューズ、リデュース、リユース、リペア、リサイクル）の取り組みを継続するとともに、食品ロスの削減やリユースの仕組みづくりなどに取り組みます。	5R推進員の協力を得て、プラごみ分別収集に向けた学習やプレテストを行った。また食品ロス対策の一環として、内子発環境会議で学習や段ボールコンポストの紹介・製作を行ったほか、昨年に引き続き町職員を対象としたフードドライブ、広報誌を通じた周知等を行った。
ゼロ・ウェイストを目指した啓発活動	様々な場面や機会を通して「ゼロ・ウェイスト」につながる取り組みや啓発活動を行い、一般廃棄物処理基本計画の目標である令和9年度の町民1人当たりの1日のごみ排出量600g以下、リサイクル率22.6%以上を目指します。	サロンや福祉館の調理実習の機会を通じた食品ロスやごみ分別をテーマとした学習会の実施や、窓口で転入者にごみ分別アプリを紹介をしている（R5.3末現在、導入863件）が、ごみ排出量の削減やリサイクル率の向上に結びついていない。町民1人1日あたりのごみ排出量756g、リサイクル率17.1%（R3年度実績）
ごみ出し支援の仕組みづくり	ごみ出しが困難な人のごみ出しについて、既存の団体等と連携した支援の仕組みづくりに取り組みます。	自治会等からの要望に応じて随時、収集場所の変更・追加を行った。またごみ出し困難者の戸別収集に向けて、大洲市の事例について聞き取りを行うなど、具体的な検討に着手した。

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
環境基本計画の推進	第2次環境基本計画に基づいた取り組みを行います。	各部署において、後期計画に基づいた取り組みを行っている。
自然生態系保全の推進	地域の現状調査とモデル地域の選定、また、その場所の専門家（トコロジスト）の育成などに取り組み、自然生態系の保全に努めます。	本事業の目的、概念等の理解促進を図るため、昨年度と対象地域を変えてトコロジストの基礎講座を（年3回：小田地区）を実施。参加者の活動等への理解、興味を得るとともに、次のステップへの課題の確認もできた。
環境教育の推進	体験を重視した環境教育を推進し、エコロジータウンを次世代へ継承します。	うちみづネット等と協働し、園児や児童を対象に自然観察会（6回）、環境学習会等（14回）を実施した。
環境子ども会議の開催	環境教育や体験を通して環境についての理解を深める。	新型コロナウイルス感染症予防対策として、中学生は集会形式、小学生はリモート形式にて環境学習会を実施。
環境教育副読本の活用	副読本を活用し内子町での環境保全の取り組みを学ぶ。	総合的な学習の時間、理科、社会、環境学習会等で活用。
地産地消の推進（内子学校給食センター）	地元食材の活用、郷土料理の開発など地域に根ざした給食の実施に努めます。	数量や規格が揃わないことが多くあったが、地元で生産された新鮮な農産物を使用することで、食育の推進、地域農業の振興につなげている。
地産地消の推進（小田学校給食センター）	地元食材の活用、郷土料理の開発など地域に根ざした給食の実施に努めます。	地産地消については、米は全て内子町産で賄い、野菜果物等は、せせらぎ、からりなどと連携を行うことで、内子産野菜類の使用実績は重量ベースで64%となり、前年度実績（56%）を上回った。（R4小田学校給食センター独自目標：65%）

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
景観まちづくり賞授賞者	件/年	0	2	1
景観まちづくりフォーラム	回/年	0	0	1
土塀、板塀等設置奨励補助金及び緑の町づくり補助金	件/年	0	5	4
一般家庭での木質バイオマス利用設備、太陽光発電設備および蓄電池等の設置に係る補助事業件数	件	161	205	236以上
公共施設における再生可能エネルギー設備の導入	箇所	—	0	1以上
地域における再生可能エネルギーモデル設備の導入	箇所	—	0	1以上
木質ペレット（製造量）	t	8,000	7,300	9,000
木質ペレット（町内利用量）	t	7,000	6,500	8,000
BDF（製造量）	ℓ	16,000	14,314	36,000
BDF（町内利用量）	ℓ	15,000	12,143	36,000
1人・1日当たりのごみ排出量	g/人・日	734（平成30年度実績値）	756（R3年度実績値）	644
リサイクル率	%	17.2	17.1（R3年度実績値）	20.8
環境基本計画数値目標達成率	%	56（平成30年度実績値）	71（令和3年度実績値）	90
自然生態系保全モデル地域の選定	箇所	0	0	3
環境子ども会議の開催	回	1回/年	1回/年	1回以上/年
環境教育副読本の活用	回	3～5回/年	8回/年	6回以上/年
内子産野菜類の使用実績（重量ベース）※内子学校給食センター	%	約60	約41	約70
内子産野菜類の使用実績（重量ベース）※小田学校給食センター	%	約60	約64	約70

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温暖化対策設備導入促進事業は、全ての申請に対して交付できるよう設備ごとの補助枠を廃して柔軟に対応し、予算が不足する場合は補正対応とする。(R5年度から)</li> <li>・ 木質バイオマスの普及・拡大は、対象機器の導入に限らず、発電利用などを含め総合的に考える必要がある。またBDFの利活用は、回収・製造体制の持続・安定化を図る必要がある。</li> <li>・ 引き続き、さまざまな機会を通じて5R推進の啓発に努める。ごみ出し困難者の収集支援策を具体化する。</li> <li>・ 令和5年度の増刷に合わせて、環境教育副読本内容の見直しを行う。</li> <li>・ 給食センターと農産物納入業者相互の連携を深め、地元産物の安定的な納入を図っていく。(内子学校給食センター)</li> <li>・ 給食の食材となる野菜を安定的に年間を通して出荷できる農家を育成し、地産地消を進めていく。(小田学校給食センター)</li> </ul>
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>2. おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。(環境政策室)</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<p>・ 景観まちづくりについて、指導・助言・勧告の中では是正していくという難しさがあるが、町がものすごい長い年月をかけて、この景観を形作ってきた中でこういった事例(社名公表)が出てしまうこと自体が驚きである。内子町の景観まちづくりを住民が理解していただけるよう住民の意識を醸成していく方法を考えていく必要がある。</p>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	町並・地域振興課
ミライ・プラン	【ミライ6】地域への愛着が観光につながるまち
主な取り組み	地域人材の育成支援、地域資源の磨きと商品化、戦略的な受入体制づくり、二次交通の整備、情報の集約と発信の強化
基本計画該当頁	29・30

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
シティプロモーションへの転換支援	内子町のイメージを創出させる情報発信に戦略的に取り組み、マーケットに即した情報発信力を形成します。内子町公式観光サイト「内子さんぽ」のリスティング広告を実施する一般社団法人内子町観光協会を支援します。	令和2年度から公式観光サイト「内子さんぽ」の主な運営を一般社団法人内子町観光協会に委譲し、よりマーケットに即した情報発信を行うことができた。町では情報の提供を行い支援した。
多彩なプログラムの開発および支援	酒蔵ツーリズムやガイドとともにまちあるきを楽しむツアー、伝統工芸体験（大洲和紙や木工など）などをブラッシュアップする取り組みを支援します。また、資源循環や森林保全など明確なテーマ性のある観光プロジェクトなど、多彩なプログラム形成に取り組みます。新たな商品メニューにおいては、一般社団法人内子町観光協会が造成販売につなげ、地域観光経営を目指します。	（一社）内子町観光協会や内子ツーリズム推進協議会、地域おこし協力隊、JR四国とのタイアップやE-BIKEツアー等31件のツアーメニューを展開した。
二次交通の整備	町内の交通拠点（駅、IC）から各観光スポットへの移動手段整備を目指します。	えひめ南予きずな博の事業の一環として無償貸与されたE-BIKE 2台（GIANT ESCAPE RX-E+）、石畳の宿からの引取品2台（ヤマハPA26NLDX）、地方創生臨時交付金活用8台（GIANT ESCAPE RX-E+：4台、GIANT FATHOME E+PRO：4台）、内子大洲連携事業3台（GIANT FATHOME E+PRO）、内子町観光協会購入品15台（アントレックスS9：14台、アントレックスS6：1台）、の合計30台を内子町ビジターセンター（11台）と旅里庵（19台）で貸し出し、JRで来町した観光客が市街地から離れた場所を観光をする際に活用いただいた。
訪日外国人観光客への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県の玄関口・松山空港を発着する国際線が増えていることから、空港から当町へ来る外国語対応が必要になっています。また、二次交通を整備し、町内を周遊していく仕掛けを整備します。</li> <li>・訪日外国人観光客の情報提供、QRコードの適切な管理運営に取り組みます。</li> <li>・多言語表示を進めます。（サイン、看板表示）</li> </ul>	<p>内子町観光協会と連携し情報発信の一元化を行った。新型コロナウイルス感染症の水際対策が緩和された令和4年9月7日以降、英語版観光HPのPV数が増え、17,662件となった</p> <p>一方、令和4年度の訪町外国人観光客は331名で、そのうち宿泊数は62名と低調であった。</p> <p>令和5年は海外路線便数が増加傾向にあるとともに、令和5年3月26日から松山ソウル線が再開しており、内子町観光協会運営と連携したHPでの情報発信と、訪日外国人向け観光コンテンツ造成支援を強化していく必要がある。</p>

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
観光行動を促す情報発信事業	英語併記によるデジタルサイネージを推進します。	ビクターセンター設置のデジタルサイネージに、英語併記による内子町の観光画像を放映した。
ねき歩きコースの発掘	新しい観光資源に取り組む拠点、地域などを発掘します。	観光協会に運営が変わり、旧コースは停止。付加価値型のねき歩きをJR四国・キタマネジメントに提案。
ねき歩きコース造成	環境、森林産業などコミュニケーションプランを作成します。	石畳地区でJR四国(20名)・キタマネジメント(2名)とタイアップで観光協会が実施。
担い手育成と組織の自立化支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着地型旅行商品の開発や販売を行います。</li> <li>・地域の担い手連携を図り、ツーリズムの全町的な拡大を進めます。</li> <li>・地域組織を下支えする農林漁家へ経済的に循環する仕組みを構築します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着地型旅行商品として造成した「親子旅」を、町内外の小学生(親子)に周知・販売した。(カブトムシ事業はコロナの影響により中止。) 年間で100泊ほど販売した。</li> <li>・内子ツーリズム推進協議会において、地域の実践者の連携を図るとともに、特に五十崎地区などモデル3地区以外の地域への連携拡大を行った。</li> <li>・教育旅行の受け入れを3施設で行い14名を受け入れた。次年度以降も受け入れを強化するため、他市で行われた結果報告会に参加するなど機運醸成を図った。</li> </ul>
目的型ツーリズムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケットの趣向をとらえ、地域にある資源を活用した体験プログラムの造成支援を行います。</li> <li>・滞在時間を延ばすため観光協会と連携し、体験プログラムを滞在型として商品化しプロモーションを図ります。</li> <li>・目的となる体験や景観、食事を世界にむけて可視化し、それらに関連する地域農林漁家を増やします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子旅などSTP分析を意識した商品を造成した。</li> <li>・観光協会やみそぎの里と連携しながら、各種体験プログラム(滝行など)の販売を実施した。</li> <li>・11月をグリーンツーリズム月間として、誘客促進に繋げた。開催期間中の宿泊者数306人</li> </ul> <p>情報の発信及び予約受け入れ簡略化のための予約サイト「内子あそび」を運営し、物販部分も増強した。</p>
「うちこ町並み保存支援隊(仮称)」の組織化	伝統的建造物の保全のため、「うちこ町並み保存支援隊(仮称)」を創設し、建物の紹介、維持、修理、入居希望者への対応など幅広い支援活動を行います。	不動産業者と連絡を取りあい、入居者の募集について情報交換を行ったり、入居希望者とは入居に際しての希望等、可能な範囲で対応した。新規入居者とは建物の修理などについての支援活動を行った。
内子座活用事業	<p>《内子町文化創造事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100周年事業から引き続き、柱とする「伝統芸能(文楽、狂言等)」、「アーティストインレジデンス(AIR)」、「連携協定大学の活動」を軸に、子どもからお年寄りまで広く楽しめる事業に取り組みます。なお、狂言においては、「内子こども狂言くらぶ」を存続し、大人の部まで実施し、各種企業・団体と連携して伝統工芸の支援や地域活性化を図ります。</li> </ul> <p>《危機管理マニュアルの作成》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内子町が責任を負う自覚を持ち、公演に際し不測の事態に対応できるよう、内規を作成します。</li> </ul>	<p>《内子町文化創造事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狂言事業においては、「内子こども狂言くらぶ」の稽古を4月から取り組んだ。5月には依頼公演を受けて内子座にて上演した。10月には内子座で成果披露するとともに、11月にはきずな博の一環として南予伝統芸能発表会に出演し、子ども達自身で狂言ワークショップを行った。大人の部についても継続して取り組み10月に成果披露した。</li> <li>・AIR事業について、東京芸術大学映像研究科による映画撮影が実施され、協力した。</li> <li>・連携協定大学の活動として、四国学院大学のAIR事業を予定していたが、日程調整がつかず実施しなかったが、令和5年度からの実施に向け、内容等協議を深めた。</li> </ul> <p>《危機管理マニュアルの作成》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における内子座活用について、内規をとりまとめており、適宜修正を加えながら運用した。</li> </ul>

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
観光客数	人	114万	93万	120万
HP「内子さんぽ」訪問者数（1日平均）	回	521	540	1,000
ツアーメニュー	件	27	31	70
訪日外国人観光客数	人	5,607	331	10,000
訪日外国人観光客宿泊数	人	1,346	62	2,200
ねき歩きコース	件	9	2	11
ねき歩き参加者数	人	80	22	180
滞在型体験プログラム商品	個	2（キャンパ・朝食）	3（親子旅など）	8
民間のグリーンツーリズム宿泊施設	施設	8	8	10
グリーンツーリズム宿泊者	人	6,000	3,346	12,000

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会や各種団体と連携を図り、引き続き効果的な情報発信及び商品造成等の支援を行う。</li> <li>・コロナウイルスの影響が軽減しインバウンドが急速に回復しており、観光協会と連携した観光戦略の展開が必要。QRコードを活用した多言語案内は運用廃止とし、「内子さんぽ」英語版のホームページに集約した。</li> <li>・ねき歩き事業について、コロナウイルスの影響もあり実績が上がらない。検討が必要。</li> <li>・グリーンツーリズム事業については、コロナウイルスの影響が顕著にみられているため、近郊周辺へのアプローチを強化する。</li> <li>・引き続き、伝建地区内の建物等修理を継続するとともに、技術者の育成に努める。</li> <li>・今後も内子町文化芸術推進基本計画のもと内子座活用事業について推進していくが、保存修理工事期間中においては、他の施設等を利用した事業展開について、内子町文化創造事業実行委員会等にて検討・実施していく。KPIについて、文化芸術推進基本計画の個々の取組を実施し、最終年度にアンケートを実施して把握する予定である。</li> </ul>
目標の修正意向	あり
目標の修正理由及び内容	内子座保存修理事業の着手時期が延期されることに伴い、保存修理工事の実施時期が令和6年度以降から令和9年度頃になる見込みである。時期がはっきりしたら修正したい。

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>2. おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。（ねき歩き事業）</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光のスタイルが変化してきているので、元々設定されていたKPIにそぐわないところがある。数値的ではなく、質的の事業を検討する必要がある。また、観光客を受け入れしていく方々をどう支えていくかっていうこともかなり大きい課題になっているのではないかと。観光計画との連携しながら柔軟に対応していただきたい。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	自治・学習課
ミライ・プラン	【ミライ7】人も、地域も、生き生きと輝き続けるまち
主な取り組み	基礎コミュニティの維持、地域の集いの場の確保、未来創造型コミュニティの結成促進
基本計画該当頁	31・32

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
自治力強化のための人材育成	それぞれの地域課題解決のために実施している「自治センター研究大会」の内容充実のため、発表や討論の仕方、参加者などを工夫します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内子町自治会連絡会では「未来を支える地域力」を、内子自治センターでは、「まちづくり」]をテーマに研究大会等を実施した。</li> <li>・内子東自治センターでは「積極的な地域づくり活動」を、五十崎自治センターでは「地域資源の活用」をテーマに自治センター管内視察研修事業を実施した。</li> </ul>
自治会間、地域間等の連携推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の自治会が連携し、環境整備や農産物の販売活動、廃校活用などを検討します。</li> <li>・自治会とNPO・企業・大学等が連携し、耕作放棄地対策や森林保全活動、伝統文化の保存継承活動を検討します。</li> <li>・各自治センター管内での自主防災連絡会が5つの管内において、令和元年度にすべて整備されました。この自主防災連絡会での連携を密にし、より実践的な防災訓練や情報交換等を活発化することで、安全・安心な地域づくりに努めます。</li> <li>・同じ課題を抱える自治会が連携して課題解決方法を検討する場づくりに努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧田渡幼稚園舎（宿泊施設）を活用するため、指定管理者に「田渡地区自治会連絡会」が選定されている。引き続き円滑な運営に向けて、小田自治センターを中心に、当面の間、助言・指導、広報活動等協力していく。</li> <li>・未実施。</li> <li>・すべての自治センター管内で、自主防災組織連絡協議会（総会を含む）を開催し、情報交換等を行った。</li> <li>・各自治センター自治会長事務局長会を開き、地域づくり計画書の進捗について情報交換を行った。</li> </ul>
コミュニティビジネス事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在実施している事業や地域間交流イベントなどを開催し、地域資源を生かしたビジネス創出のきっかけづくりに努めます。</li> <li>・「よろずや中川」など先進事例などに学び、自治会内外の互助、共助のシステムの構築に向け支援を行っていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城廻自治会（花の苗販売）、中川自治会（よろずや中川、地域の草刈り等）他3自治会、実施中。また、田渡地区自治会連絡会は、旧田渡幼稚園舎（指定管理施設）を活用し宿泊事業を始めている。</li> <li>・地域づくり事業補助金を活用して、長田・大瀬・柿原自治会で視察研修計画を立てていたが、新型コロナ感染拡大により研修中止となった。</li> </ul>

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
伝統文化の保存継承	内子座などで開催している発表の場を通して、町内外へ内子の伝統文化の再認識を図り、学校教育と連携して後継者育成に努めます。	内子町伝統文化継承団体連絡会主催の「第9回内子町伝統芸能まつり」を内子座にて開催し、約200人が鑑賞した。また、姉妹町村である宜野座村の芸能団にも参加いただき、10月および11月に伝統文化交流を両町村で行った。
特色ある地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の将来像を描く地域づくり計画書の年次計画に沿った地域づくりを進めながら、誇りを持って住み続けられるコミュニティを構築します。</li> <li>・令和3年度において、すべての自治会が次年度からの10箇年地域づくり計画書を作成するため、地元職員や地域づくり職員の協力体制の強化を図ります。</li> <li>・地域全体で、地域の特色や個性を再認識し、さらには共有しながら、住民自らが過去の活動を検証し次年度計画に反映しながら、地域の夢や目標、地域づくりの方向性を明らかにするため、住民および職員が協働して地域に関わるよう配慮します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度には、全自治会において、地域づくり計画書が策定され、令和4年度から計画書に基き活動が展開されている。各自治センターでは、その実現に向けて、指導・協力を行っている。</li> <li>・地域づくり担当職員（各自治会2名）を配置。（任期 令和3年度～令和4年度）</li> <li>・令和3年度に地域づくり計画書が策定され、各自治会の住民・職員が積極的に関わり、地域の課題解決に向けた10年間の活動目標を定めることができた。今後も、目標実現に向けて協力体制を整えていく。</li> </ul>
老朽化した自治会館（避難所）の改善	現行の耐震基準を満たしていない自治会館・自治センターについては、財政状況を勘案しながら、耐震改修（改築）を計画的（年1箇所以上を目安）に進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大瀬自治センター管内では、大瀬自治センター整備検討委員会が開かれ（事務局 大瀬自治センター）、町長に答申が行われた。</li> <li>・五十崎自治センター管内では、柿原自治会館の建築設計を行った。</li> <li>・小田自治センター管内では、立石自治会館の改築に向けた協議を行った。</li> </ul>

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
コミュニティビジネス等の地域づくり活動支援	箇所	3	9	8
自治センター・自治会館の耐震化および改築（対象自治センター20箇所）	箇所	4	7	9

今後の方向性及び改善点	
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり計画を実行していく上で、地域の中での協力体制や行政からの助言等がとても重要な方向性であると考えている。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	学校教育課、自治・学習課
ミライ・プラン	【ミライ8】学びあい、育ちあえるまち
主な取り組み	家庭の教育力アップ、コミュニティスクールの推進、国際人教育の推進
基本計画該当頁	33・34

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
小・中学校の一貫した教育		小田小・中学校においては、小学校外国語の指導に中学校英語教諭が算入し、指導の充実を図っている。
学習教室「学び舎」による学習サポート		学校運営協議会等で活動を周知し、指導者を募っている。中学校においては、受験対策として児童をサポートしている。
生活習慣と家庭学習のパンフレットの活用		年度当初にパンフレットを配布し、各校で児童生徒や各家庭に啓発している。
コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の導入		内子地域（内子中、内子小、立川小、石畳小）で導入し活動が始まった。これにより町内全ての学校において学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールとしての取組を始めた。
本物の芸術に触れる機会の創出		大阪桐蔭高校吹奏楽部演奏会に参加（中学校）
小・中学校教員等に対する研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校英語教員の指導力向上研修</li> <li>・小中が連携した英語研修</li> </ul>	Web会議システムを活用して、小中学校教員を対象とした英語学習を実施した。
ALT（外国語指導助手）による英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTを活用した外国語教育の推進</li> </ul>	ALT 4名による全小・中学校への指導体制が整った。
CIR（国際交流員）による国際交流活動および国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CIRを活用した国際理解教育の推進</li> </ul>	JETプログラムによる新任CIR1名が会計年度任用職員として町内幼稚園・小学校において国際交流・国際理解啓発活動を行った。
小学校外国語活動推進校指定等の小学校外国語推進の取り組み	毎年、小学校1校を推進校として指定し、それぞれの学校が抱える外国語教育課題について研究するとともに研究成果を分かち合う	天神小学校にて小学校外国語科（5年生）の研究を実施した。研究発表会ではWeb会議システムを活用して文部科学省 直山視学官にご講演いただいた。

計画事業	左の事業内容	0 取組状況
中学校英語弁論大会や英語検定料補助等の学習意欲向上を促す取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校英語弁論大会 年1回</li> <li>・中学校英語検定料補助 1人につき年1回</li> </ul>	Web会議システムを併用して英語弁論大会を実施した。中学校英語検定受験者数301/345 受験率87.2%
1) (公財) 内子町国際交流協会の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な協会運営を図るため有効な資金運用、他団体との国際交流分野での連携を強化します。</li> <li>・財源確保に向けた積極的な取り組みを行います。</li> <li>・協会設立30周年記念事業に向けた取り組みを行います。</li> </ul>	特定資産の運用収入、外国語講座受講料、賛助会費、寄付金等により運営。【特定資産運用管理委員会(勉強会を含む)を開催し、適切な資金運用に努めた】プランナー会において、協会設立30周年記念事業に向け、各部会に分かれ協議をしている。
ドイツ・ローテンブルク市との交流事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市としてのローテンブルク市との更なる交流事業を進めます。</li> <li>・ローテンブルク市との姉妹都市盟約10周年事業に取り組みます。</li> <li>・青少年海外派遣事業や文化交流事業、訪問使節団の受入事業などを進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により海外派遣事業は中止。ローテンブルク市の使節団の訪問なし。</li> <li>・令和4年9月27日にTV会議を利用して新たに着任したドイツ出身のCIRをローテンブルク市担当者に紹介した。</li> <li>・R5年度の青少年海外派遣事業実施について検討(R5年4月に中止決定)。R5年度ナーゼル市長をはじめとする訪問使節団の受入を計画し準備を進めている。</li> </ul>
世界の国々等との交流	アジア諸国も含めた世界の国々との国際交流活動を展開します。	CIR・ALTのウェルカムパーティや国際理解講座を開催し、町民との交流を図った。
家庭の教育力アップ	既存の子育て講座や青少年健全育成事業などの連携・充実を図り、保護者対象の「親の学び」、親子で参加する体験型の「親子の学び」の場を設け、親子の育ちをサポートします。	親子学級は応募者が1組しかなく事業中止したが、園児の関わるものづくり事業として、企画委員会主導による「天才画廊」を実施。青少年育成についてはものづくりワークショップ3回と河川生物観察及び川漁食育・凧博3事業など親子で体験する地域資源講座を実施。
地域の教育力アップ	地域の歴史や文化、技術など、ふるさとについての学びの場を設けるとともに、それを伝えることのできる人材を発掘・育成し、内子町版人材バンクの創設と活躍の場づくりを進めます。	中世の戦いと町内の山城を評する山城の講座、昭和37年内子高校制作スライド映像を鑑賞しながらの民俗講座、町指定天然記念物(カヤ)を題材にした巨木講座を実施。受講者数90名の内、山城講座が40名と多く関心が高かった。

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
学習教室「学び舎」の開設	校	7	8	11
コミュニティ・スクール導入校	校	2	11	11
英語検定受験率	%	約50	83.9	約60
小学校外国語活動推進校指定の取り組み	校	各年1	1	各年1
青少年派遣事業（毎年）	人	9/年	0	10/年
「親の学び」「親子の学び」開催回数	回	—	10	各2回以上/年
ふるさと学講座 開催回数	回	—	3	3回以上/年

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内でのWeb会議システムが浸透し、新型コロナウイルス感染症対策下でも学びを止めない素地が醸成され、今後の取り組みに繋げることができた。</li> <li>・様々なテーマで親子の学びの機会を創出し、事業の連携及びPDCAサイクルを回す。</li> </ul>
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>2. おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。（青少年派遣事業）</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定の受験率が高いのに驚いた。コロナで海外と直接交流ができないときこそ、外国語指導助手（ALT）の先生の尽力が重要であったと考える。</li> <li>・民間の事業者の方々の支援により学びのサポートを実施していただきたい。（金融教育など）</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	総務課、学校教育課
ミライ・プラン	【ミライ9】次世代技術を活用したスマートなまち
主な取り組み	行政事務の効率化・働き方改革の推進、暮らしに寄与する次世代技術の導入
基本計画該当頁	35・36

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
ICTによる行政サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客等のニーズ対応や災害時のインターネット回線確保のための公衆無線LANのエリア拡大を検討します。</li> <li>・行政情報のオープンデータ化を進めます。</li> <li>・観光、環境、子育て支援、要配慮者支援、防災対策、公共施設の維持管理等でICTを活用し、持続可能な地域社会の実現を目指します。</li> <li>・申請、確認等の行政手続きにおいて、マイナンバーカード等を利用したオンライン申請システムを構築し、行政サービスの質と効率の向上を図ります。</li> </ul>	<p>マイナポータル（ぴったりサービス）からマイナンバーカードを利用した、転出の届出・転入届提出の来庁予定申請及び子育て・介護関係手続（26手続）の電子申請を可能とした。</p>
電算システムの広域クラウド化	<p>複数の地方自治体がクラウド化された情報システムを共同運用することで、情報システムに係る経費の削減、災害時の業務継続性の向上、情報セキュリティ水準の向上などを図ります。</p>	<p>R4年より中南予自治体クラウド協議会の構成自治体（5市町）による自治体クラウドを運用している。 協議会では国が進める標準システムへの対応も検討している。</p>
AI（人工知能）、RPA（定型作業自動化）の活用	<p>定型作業の省力化や正確性の向上を目指し、AIやRPAを活用した迅速で効率的な事務処理体制の導入を促進して、町民サービスの向上を図ります。</p>	<p>マイナポータルからの電子申請データを介護保険システムへ連携するため、RPAを導入した。</p>
ICTの積極的な活用	<p>GIGAスクール構想の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール端末を使用した学習機会を提供する目標を、（小1～小4：週3回）、（小5～中3：毎日）と定め各校で推進した。</li> <li>・ICT支援員を1名配備し、各学校のサポートを行った。</li> <li>・電子黒板等を整備し、ICT教育環境の充実を図った。</li> <li>・教職員の研修会を実施（学校教育課、ICT支援員、県出前講座）</li> </ul>

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
電算システムクラウド化		未導入	導入	導入
RPA利用業務		0業務	1業務	3業務

今後の方向性及び改善点	未実施の基盤整備や活用を検討する。また、行政手続きのオンライン化促進ならびにAI・RPAの活用を進める。
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>2. おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。(総務課)</li> <li>4. 未着手</li> </ul>
	推進会議	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ul>
		意見	・情報基盤整備を整備し、ICTを継続的に活用していくことが難しい。分野の人材をどう確保していくかということが重要な項目である。

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	町並・地域振興課、建設デザイン課
ミライ・プラン	【ミライ10】内子のミライ
主な取り組み	内子駅前交流計画、内子本町商店街にぎわい計画、歴史文化が息づく”まちづくり”計画
基本計画該当頁	37・38

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
商業の活性化を図るための空き店舗等対策（空き店舗等改修等）への支援	老朽化等による既存店舗の改修も視野に取り組みます。	新規事業を活用し、空き店舗等2件を改修した。
文化財保存事業	伝建地区の修理・修景事業を継続して実施します。文化財としての価値を保つため修理修景基準に従い修理を行います。また、分かりやすく周知するため地域住民を対象に広報活動を行います。併せて修理・修景事業に携わる技術者の育成に努めます。	国庫補助での修理を1件、単独事業は修理7件、修景事業を1件、防虫事業を1件行った。 今年度においても県内の建築業者も事業に携わり、町内だけの事業者でなく、裾野が広がっている。
伝建地区の整備	生活環境を整えるため、防災施設や道路、駐車場の整備について検討します。また、空き家の活用を進めるとともに、伝建地区内の案内板やサインなどを整備して、来訪者の利便性を高めます。地区の拡大や保存すべき物件の特定に取り組み、その指針となる保存計画、保存条例の見直しを進めます。	保存地区に隣接する土地の寄附を受け、保存地区内居住者及び事業者向けの駐車場を整備した。 保存計画を保存活用計画と改めるよう準備を進めたが、策定には至らなかった。令和5年度に保存活用計画とし、条例改正も進める。
歴史まちづくりの推進体制の確立	内子町歴史的風致維持向上計画推進協議会により計画の進捗について協議を行っていく予定ですが、当該計画の範囲は広域にわたっており、具体的に事業を実施していくには庁内での歴史まちづくりの推進体制の確立や、地域での核となる人材との連携が必要です。各部署での事業や自治会等の地域づくり活動と連動・連携した取り組みができるよう推進体制を確立します。	内子町歴史的風致維持向上計画推進協議会を令和5年3月20日に開催し計画の進捗等の協議を行った。 庁内の推進体制は、町並・地域振興課の歴史まちづくり係が令和4年度から2人体制となり、特に博物館活動や学芸活動において幅のある取り組みができるようになった。課を超えた事務レベルでの情報共有・協議等は必要に応じて円滑に連携できた。ただし、庁内体制の強化・充実が検討課題として残る。
歴史的建造物および地域文化の調査	町内に残る未調査の歴史的建造物について、価値づけや活用の可能性を探るため建物調査を行います。また地域文化についても、教育委員会等と連携し、継承につながるよう調査等を行います。	登録有形文化財への登録に向けて、歴史的風致形成建造物候補の高橋邸と歴史民俗資料館について、建物調査を実施した。高橋邸は不明だった建築年代が江戸後期であることなどが分かった。歴史民俗資料館は文化庁の実査を受け登録については妥当であるとの見解をいただいた。両者とも令和5年度に文化庁へ意見具申の予定。 地域文化については、旧森家住宅での三月人形・五月人形の展示や、歴史民俗資料館での「家の記憶 古写真」展などにより意識啓発等を行った。

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
歴史的建造物の修理・活用	歴史的建造物の空き家化や取り壊しが進む中、その価値を生かすため、歴史的風致形成建造物（候補含む）を中心に、所有者の意向も考慮しつつ周辺環境とともに調査および事業計画作成を行い、修理・活用を目指します。修理の際には併せて職人の技術継承も図ります。また周辺環境についても地域と連携しながら景観整備を進めます。	旧森家住宅の整備活用については、風景づくり及び人流確認のための実証実験「庭カフェ」を5月に行った。アンケート等によりカフェの需要が高いこと等を把握できた。5月と12月に「旧森家住宅活用検討会」を開催し、意見交換及び案の協議を行った。運営に主体的に関わりたいというご意見もいただいた。東京大学の学生プロジェクトの協力により、3月に客座敷の畳替えを行った。藁の「本床」が使われており、表替えの様子などは貴重な資料として動画や写真で記録した。今後、試験的な利用やミーティングなどで活用していく。

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
空き店舗等改修支援件数（累計）	件	0	4	5
木蠟資料館上芳我邸来館者数	人	30,000	20,189	36,000
歴史的建造物の調査棟数	棟	1	7	7
歴史的風致形成建造物（候補含む）の活用	棟	1	1	3
伝統文化等の体験・ワークショップ等の実施回数	回	0	3	5

今後の方向性及び改善点	係としては今後も旧森家住宅の整備活用を重点的に進め、併せて歴史民俗資料館を中心に学芸活動を推進する。その他、歴史まちづくりとしては当課内及び自治・学習課との連携により多様な取り組みを効果的に進める。
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ul>
	推進会議	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ul>
		意見	・観光面でも文化面でもここが入口となるので、引き続き記載事業を展開していただきたい。

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	町並・地域振興課、自治・学習課、建設デザイン課
ミライ・プラン	【ミライ11】五十崎のミライ
主な取り組み	資源の見える化、ものづくりとアートのまち、川づくりの継承
基本計画該当頁	39

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
凧商品の生産・全国販売体制の構築	後継者と関係者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内外での積極的な体験講座の開催、町内外の学校での体験講座の講師派遣を行うことで、たくさんの方に凧の魅力を伝えることができた。また、凧文字書きの指導も行った。</li> <li>・五十崎小・中学校、天神小学校、北伊予中学校、岡田中学校（松前町）</li> </ul>
五十崎の地域体験プログラムの造成販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流拠点としての機能の拡充</li> <li>・凧あげの定着化</li> <li>・ツーリズムとしての誘客体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凧博自体でも体験を提供しているが、内子ツーリズム推進協議会及び内子グリーンツーリズム協会と連携し、体験型イベントを提供している。また、五十崎地区の連携として、五十崎自治センターと協力したイベントを開催した。</li> <li>・7月22日、29日、8月5日凧博ナイトメア（五自との協カイベント）、7月23日、12月3日ものづくり体験、1月3日 凧博すごろく大会、（五自との協カイベント）、3月26日凧博タコゲーム（五自との協カイベント）</li> </ul>
いかざき大凧合戦資料の展示	地域の誇りとして位置づけ	令和4年5月4日に行った初節句神事行事で使用した出世凧を五十崎凧博物館で常設展示し、五十崎の凧文化を知っていただく切り口とした。令和5年度はいかざき大凧合戦を開催する予定としているため、令和5年度の凧合戦が終了後、出世凧の展示を行いたい。
全国の組織・施設との情報交換	地域の担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凧以外にも和紙と竹を使った製品の作成に力を入れており、昨年度研修したうちわ作りを活かして体験メニューを実施した。延べ300人以上に体験を提供することができた。</li> <li>・凧に関しても他市町の凧師と交流をしていきたいが、凧師の高齢化及び団体の消滅という問題があるため、進んでいない。</li> </ul>
上岡美平作品群およびアトリエの有効活用と連動	地域組織を育成し凧博物館との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美平の絵画について五十崎凧博物館で常設展示をし、来館者に見てもらえるようにしている。</li> <li>・アトリエについては、検討を進めているが、耐震性が不安視されている。町が活用を進めるためには、歴まち補助金などを使用して大型改修を行わないと、活用できないという意見でまとまっており、難航している。進展なし。</li> </ul>

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
小田川の計画的な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はらっぱ基金を、河川敷内の支障木の伐採等に活用し、景観美化に努めます。</li> <li>・ふるさとの川整備区間（延長2.1km）の修景、再生に取り組みます。</li> </ul>	役場職員によるミニ小田川の清掃。自治会や建設業組合、水中めがね、アースデイなどのボランティアにより河川敷内のゴミ拾いや草刈りを実施していただき、河川敷の環境美化に努めた。
廃校跡地の利活用の検討	御祓小学校跡地の利活用について、地域おこし協力隊や地元自治会等と連携してさらなる活用方法を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信費補助及び電気設備増幅工事を行った。</li> <li>・テナント問題についての協力</li> </ul>

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
来館者数	人	1,576	1,538	2,500
体験実施者数	人	127	約500	800
事業および風関係販売額	円	550,000	687,775	1,000,000
ふるさとの川整備区間	km	0.5	1	1
コミュニティカフェの客数	人	880	1377(875)内はカフェ利用のみ	1,000

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染症の影響が薄れる中、入館者数（特に学校、高齢者施設などの団体入館）の回復に向けて、インバウンド需要も見込みながら関係機関と連携し取り組んでいく必要がある。体験については、安価かつ短時間で行えることがニーズに合っており、近場の学校などからの団体での体験がとて多かった。体験については今後もこの路線で売り込んでいきたい。（五十崎風博物館）</li> </ul>
目標の修正意向	
目標の修正理由及び内容	

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>② おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド需要を見込むのであれば、それなりの関係機関との連携が必要である。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。

内子町総合計画後期計画（内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略） 進捗管理検証シート

所属名	小田支所、自治・学習課
ミライ・プラン	【ミライ12】小田のミライ
主な取り組み	小田深山プロジェクト、小田ブランドづくり、空き家や公共施設の有効活用、内子高等学校小田分校の魅力化、小田住みよい計画
基本計画該当頁	40・41

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
廃校跡地の利活用	旧田渡幼稚園の建物を利用した宿泊施設を整備します。また、担い手となる組織の育成や宿泊施設の運営について支援すると共に他の遊休施設についても利用を検討します。	田渡幼稚園の改修整備を行った田渡地区交流宿泊施設について、指定管理者に選定された田渡地区自治会連絡会に対し、旅館業法の手続きや観光協会への加入、ホームページの作成、グリーンツーリズム協会への加入の手続きのほか、備品やリース品、消耗品等の準備など支援を行い4/29に営業を開始。運営開始後も継続して支援を行っている。コロナ禍で利用が伸びない時期もあったが、3月には51名の宿泊があるなど、利用が伸びている。R4実績195名。
ふるさと教育の推進	小田地区の児童生徒が地元の文化や歴史を知り、郷土に誇りを持つためのふるさと教育を推進するため、学校運営協議会と連携して取り組みます。	小田小・中学校運営協議会では、愛大の井口ゼミの協力により、土居通康氏の残した絵農書をテーマとした交流学习を開催した。史跡巡りは学校と協議し、隔年実施することで調整した。
地域おこし協力隊の活動支援	令和2年4月から分校化が決定した小田高校の存続に向け、学校の教育魅力コーディネーターの活動を支援します。	地域みらい留学や中学校訪問、オンラインやツアー企画を含めた学校見学の受入、ユーチューバー協力による魅力発信などの活動などを行った。小田中学校からは3年生8名のうち2名が小田分校に進学し、小田以外の町内から2名、町外13名（うち県外7名）の17名の入学があった。なお、協力隊の任期が終了したため、5年度からは小田分校の振興対策協議会で引き続き魅力発信に努めます。
小田深山溪谷施設整備（「新深山荘」の整備）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新深山荘」の新築を行い、宿泊・食事・休憩所としての機能だけでなく、ネイチャーセンターとともに、散策時の拠点・案内所としての機能も充実させ、都市部や住民など交流人口の拡大を図ります。</li> <li>・遊歩道等の付帯施設の活用検討や整備を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田深山全体構想の中で「淵首・三叉路」の整備については、アウトドア体験施設を拡充する方針に沿って、小田深山溪谷施設整備部会において溪谷のインフォメーション機能、キャンプ場、休憩施設について、必要最小限の整備を行う意見を取りまとめた。</li> <li>・「小田深山溪谷遊歩道整備計画」に基づき、遊歩道整備を県補助により実施中。（R3～R7）</li> </ul>

計画事業	左の事業内容	令和4年度 取組状況
小田深山の自然環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田深山溪谷をシンボルに、自然を守る（自然調査・植樹等）活動を実施します。</li> <li>・自然を豊かにしていくための、取り組みの研究や規制等を検討します。</li> <li>・自然ツアーや体験、研修等の受け入れ体制（スタッフの充実）を確立します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田深山保全活用計画（第3期行動計画）に基づき、保全活動を継続して行う。</li> <li>・観光協会、指定管理者、地域おこし協力隊と連携し、国有林内や溪谷、スキー場をフィールドとした体験プログラムの開発、積極的な情報発信を行う。</li> <li>・千年の森「ブナの森再生事業」において、企業・学校等との連携事業、記念樹の森事業を行う。</li> </ul>
小田ブランドづくりの推進	<p>森に関わる体験型イベント、ツーリズム等の実施を行うとともに、道の駅「小田の郷せせらぎ」等における特産品や新製品づくりを支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅においては、地産地消の一層の推進や、「オダメイド」など特産品開発のネット販売での取り組みを拡充させた。</li> <li>・「持続的に安心して暮らせる賑わいある小田を創出するまちづくり拠点」の具現化に向け、道の駅「小田の郷せせらぎ」第3期整備基本構想・基本計画の具体的な検討を行った。</li> </ul>
小田流うちこんかい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係各課、地域おこし協力隊と協働し、小田地区への企業誘致活動および既移住者からのヒアリングによる空き家実態調査（空き家、田畑、休耕地と一体）を行い、ニーズに合わせた移住者の支援を行います。</li> <li>・小田中央商店街に増えている空き家を活用した取り組みを進め、交流人口の増大による中央商店街の活性化を目指します。</li> <li>・関係機関等と廃校となった学校施設の有効活用について協議し、交流人口の拡大につなげる取り組みを実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住コーディネーターと連携したウェブ上での積極的なアプローチにより、「おだいま」など、県外からの入居者が増加し、交流を深めることで、情報発信や新規移住者の確保を図った。</li> <li>・小田地区は、移住相談12件、町内案内18件、空き家相談6件、移住者5名の実績となった。</li> </ul>
高齢者等への対応	<p>【独居老人対策】 地域で行われるサロン等に出向き、地域の課題や実情を把握し、民生委員など関係者と連携しながら独居老人の安心安全に努めます。</p> <p>【認知症者対策】 実態の把握に努めるとともに、相談者への迅速な対応により、認知症者本人や家族の負担軽減に努めます。</p> <p>【生活困難者対策】 相談者へは、関係機関と連携した迅速な対応を行い、安心して暮らせるよう支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員、見守り推進員等関係者や本庁との連絡を密に、地域の要支援者等を把握し、問題の解決にあたっての対応を行った。</li> <li>・小田地区地域支え合い協議体事業として、包括支援センター（社協委託）と連携し、生活状況に関するアンケート調査を実施した。（8月～9月）</li> </ul>
内子高等学校小田分校の存続に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分校としての存続に向けた、生徒数確保のための活動支援を行います。</li> <li>・地域資源（林業）を生かした、特色ある取り組みを行い、広くPRを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力化コーディネーターを中心に入学生確保を図ったが、令和5年度の入学生は17人（町内4人、県内他市町6人、県外7人）と目標の40人を大幅に下回った。</li> <li>・第5小田寮（41室）を整備し、寮全体の定員を現状の36人から77人に拡充した。</li> <li>・次年度から管理人の配置による寮生のサポート体制を整備した。</li> </ul>

重要業績評価指標【KPI】	単位	現状値 平成31年度	実績値 令和4年度	目標値 令和6年度
学校跡地の活用数	箇所	2	3	3
小田深山溪谷来場者数	人	15,000	17,000	25,000
散策等イベント参加者数	人	380	800	1,000
中央商店街における空き家活用	戸	1	4	5
廃校等の利活用	件	—	3	2
空き家バンク登録（小田地区）（累計）	件	2	9	20
移住者（年間）	件	—	5	5
高齢者いきいきサロンの数（小田地区）	箇所	16	15	16
各種相談（高齢者・生活困難者等）	回	5	11	10
内子高等学校小田分校への支援活動	回	—	5	5以上

今後の方向性及び改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田深山来訪者に対して利便性を確保するための施設整備の方向で、基本設計及び意見集約を図る。ツアー等のソフト事業を積極的に実施する。</li> <li>・移住促進については、移住コーディネーターと連携した積極的な情報発信を継続していきたい。</li> <li>・内子高等学校小田分校の存続に向けた取り組みについては、寄宿舍設備の充実、人的支援を継続していく。</li> </ul>
目標の修正意向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画事業中、「地域おこし協力隊の活動支援」を削除したい。</li> <li>・重要業績評価指標【KPI】中、「新深山荘利用客数及び新深山荘宿泊者数」を削除したい。</li> </ul>
目標の修正理由及び内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊の任期が終了したため。（小田分校の魅力化については、小田分校振興対策協議会が業務委託することで継続する。）</li> <li>・新深山荘建設中止に伴い、重要業績評価指標【KPI】から新深山荘利用客数及び、新深山荘宿泊者数の項目を削除するもの。</li> </ul>

評価	推進本部※	進捗度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を達成した。</li> <li>2. おおむね順調に進捗している。</li> <li>3. 計画どおり進捗していない。（小田深山関係）</li> <li>4. 未着手</li> </ol>
	推進会議	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画事業に対する取り組みは効果がある。</li> <li>2. 計画事業に対する取り組みは効果があるとは言えない。</li> <li>3. どちらとも言えない。</li> </ol>
		意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小田深山の溪谷にこれだけの来場者が来ていたことに驚いた。来場者がたくさん来ることももちろんだが、小田深山の新しい再評価につながっていくような形での観光振興を図ること。</li> </ul>

※事業の進捗度について、庁内での評価を記載しています。